

後期学校評価結果 (児童・保護者)

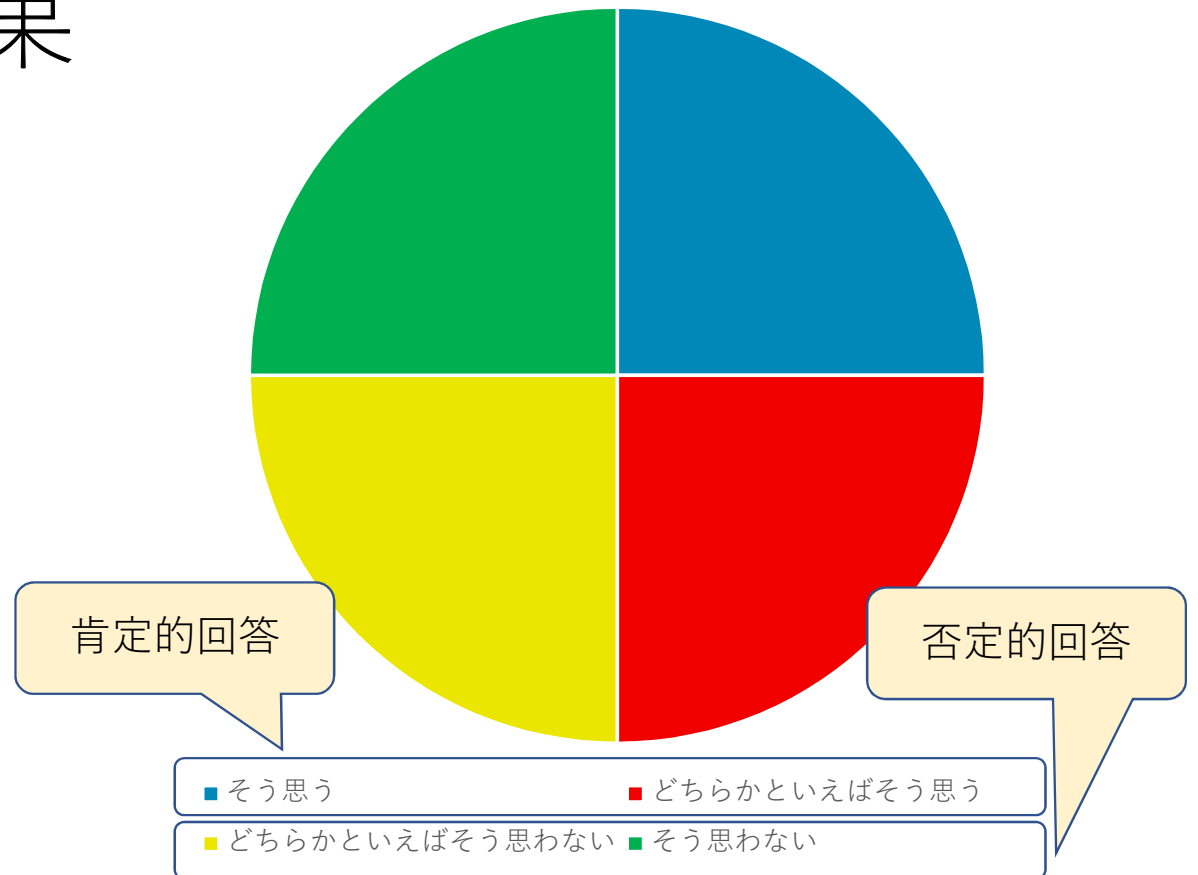
* 回答期間：1月27日～2月6日

* 児童：99人／108人（回答率92%）

* 保護者：85人分／108人（同79%）

（児童一人につき1回回答）

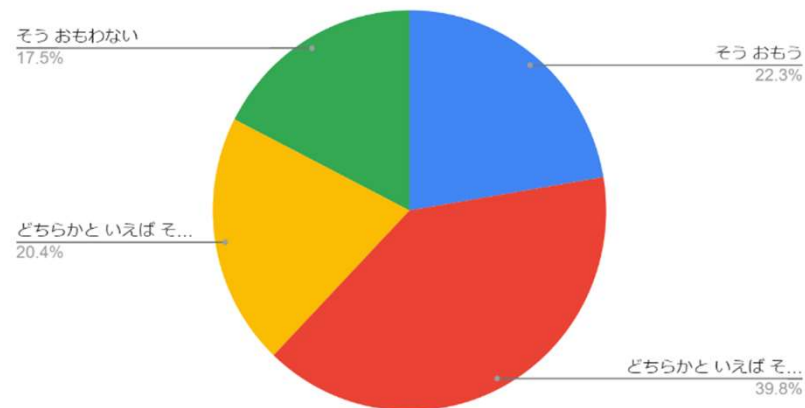
* 前期（9月実施）との比較



学校への関心、参加、感想・意見

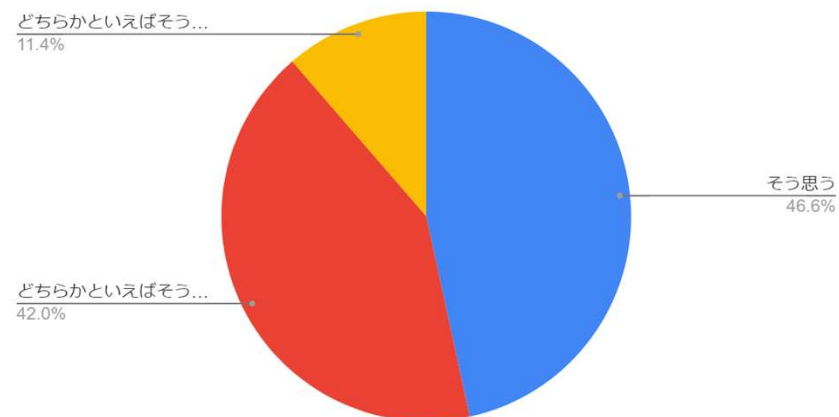
児童

「① がっこうだより、 がくねんつうしん、 ホームページを よんだり みたり している。」のカウン...



保護者

「①オープン参観日や学校・学年便り、学校HP等を見て、行事に参加すると共に、アンケート等で感想や意見を学校に届...



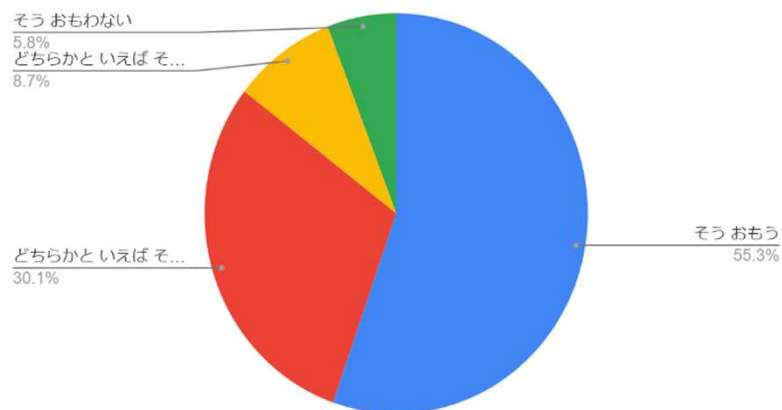
児童は肯定的回答が8.2%ダウン。配布時に一言かける等、工夫できそうか。紙媒体よりもクラスルーム等のICT媒体が主になっていることもありそう。

保護者は前期と同程度で88.6%の方が関心を持ち、行事参加や感想・意見を寄せてくださっている。

家庭や地域での自分からあいさつ

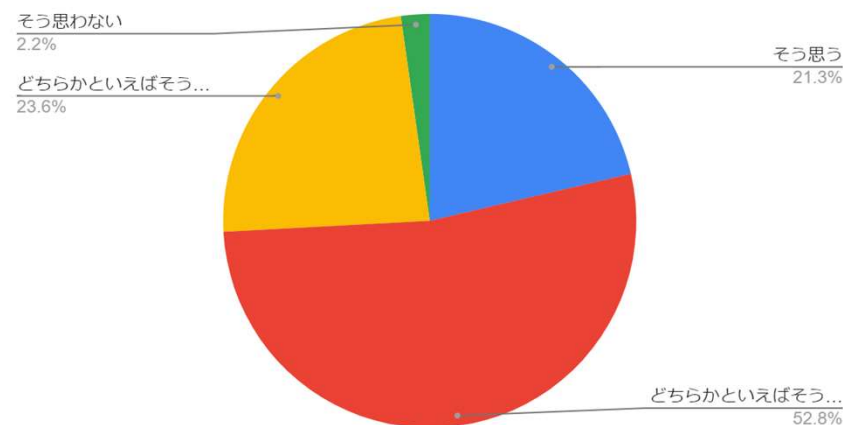
児童

「② じぶんから かていや ちいきで あいさつを
している。」のカウント数



保護者

「②お子さんは家庭や地域で自分からあいさつをしている。」
のカウント数



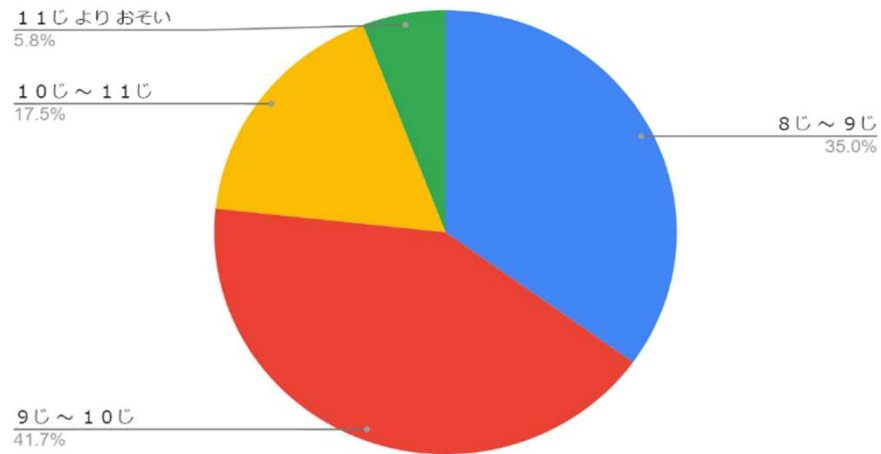
児童は85.4%が肯定的回答、前期と同程度。

保護者は肯定的回答が9.6%ダウン、否定的回答が13.3%アップ。相手に気持ちよく「伝わる」あいさつについては、生活目標で強化中。

寝る時間

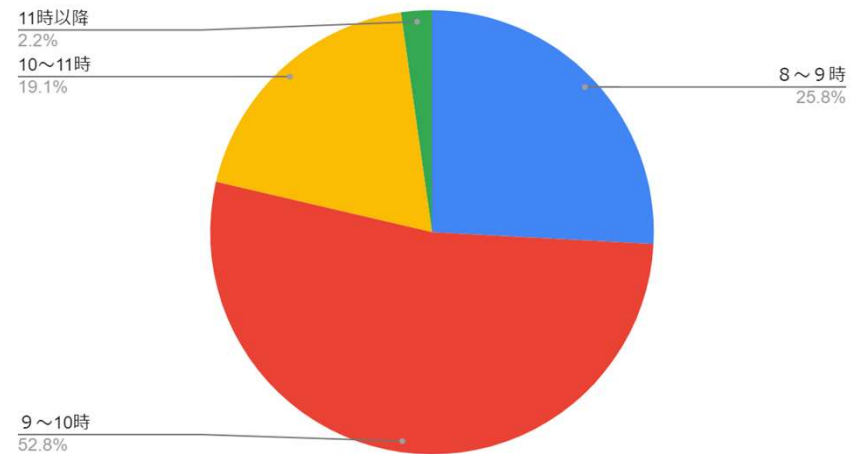
児童

「③ なんじに ねて いますか。」のカウント数



保護者

「③お子さんは、何時に寝ていますか。」のカウント数

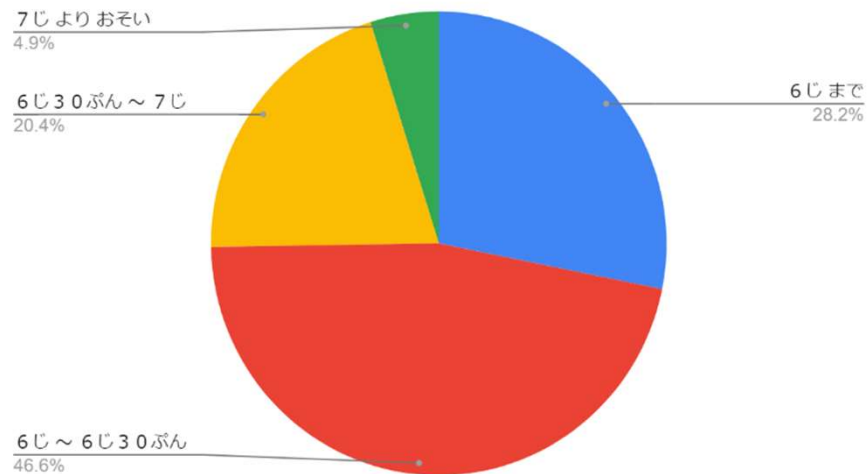


児童で10時までに寝るという回答が8.5%ダウン。10時以降が+8.4%
保護者も、子どもが10時までに寝るという回答が-5.1%、10時以降が+4.9%
さくらプロジェクトでもう一度、啓発必要。

起きる時間

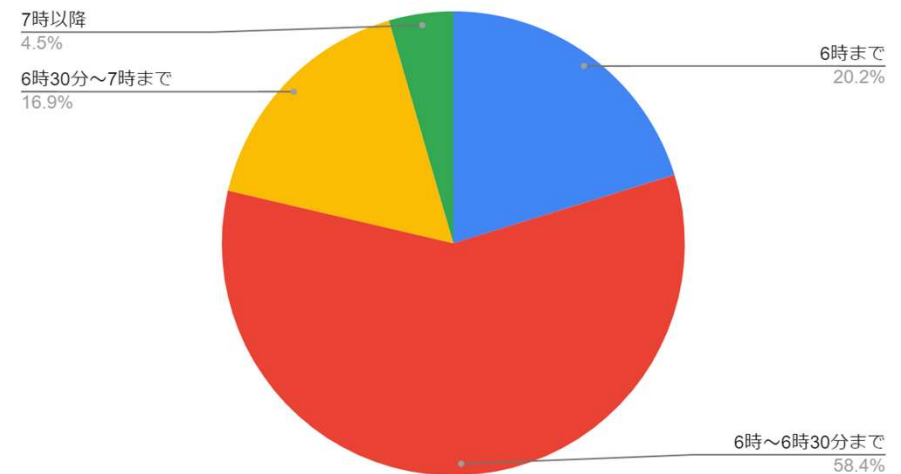
児童

「④ なんじに おきて いますか。」のカウント数



保護者

「④お子さんは、何時に起きていますか。」のカウント数

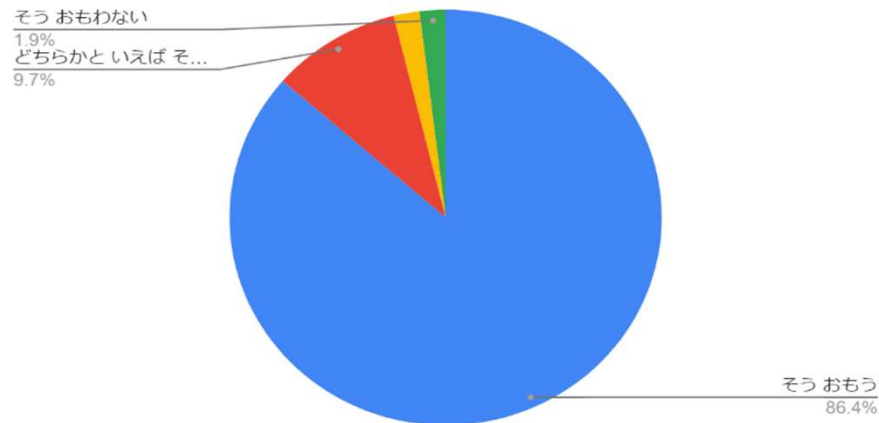


児童は「6:30～7時」が8.5%アップ、「7時より遅い」が3.9%アップしているが、保護者の回答では「6時半までに起きる」児童が+6.2%で、目に見えて起きる時刻が遅くなったわけではないようだ。引き続きさくらプロジェクト等で呼びかけを。

朝食

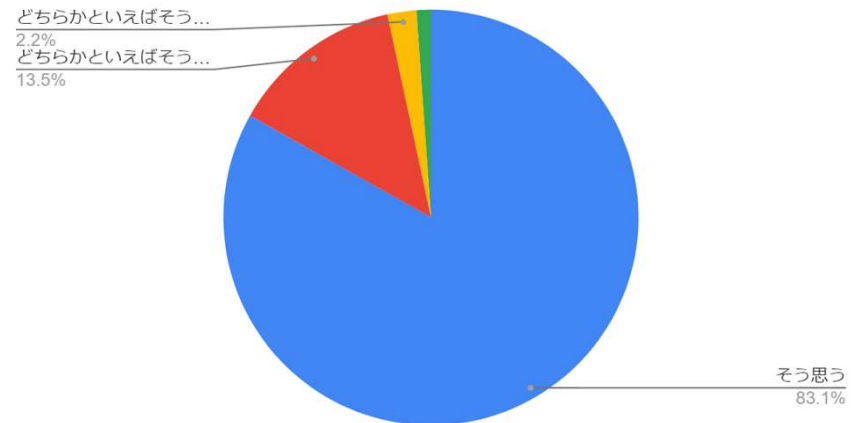
児童

「⑤ あさごはんを たべて とうこう している。」のカウント数



保護者

「⑤お子さんは、朝ごはんを食べて登校している。」のカウント数

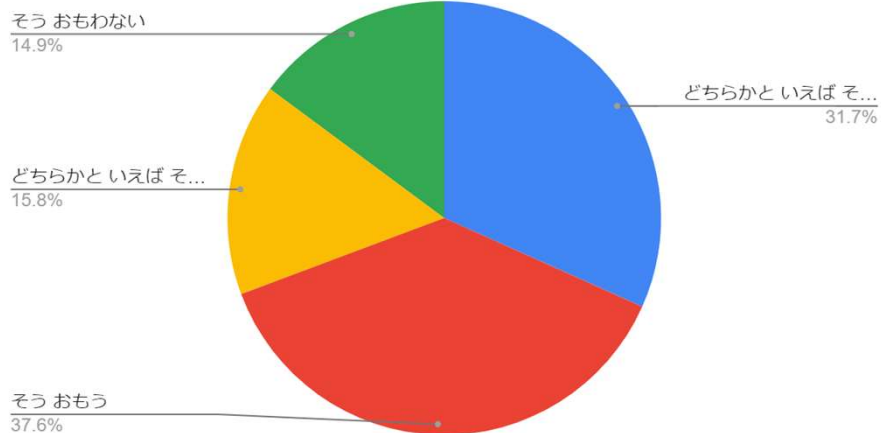


朝食を食べてきている児童が95%以上。ただし、保護者は「そう思う」が-9.8%、「どちらかといえばそう思う」が+7.4%であることから、保護者が望む量は全部食べていない等の時もありそう。

ゲーム、テレビ、スマホ等のきまり遵守

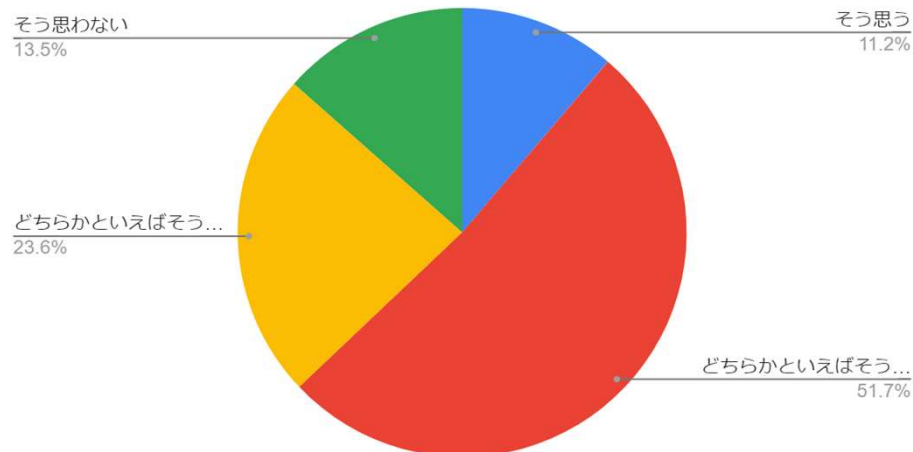
児童

「⑥ ゲーム、テレビ、スマホなどの きまりを
まもって いる。」のカウント数



保護者

「⑥お子さんは、ゲーム・テレビ・スマホ等のきまりを守って
いる。」のカウント数

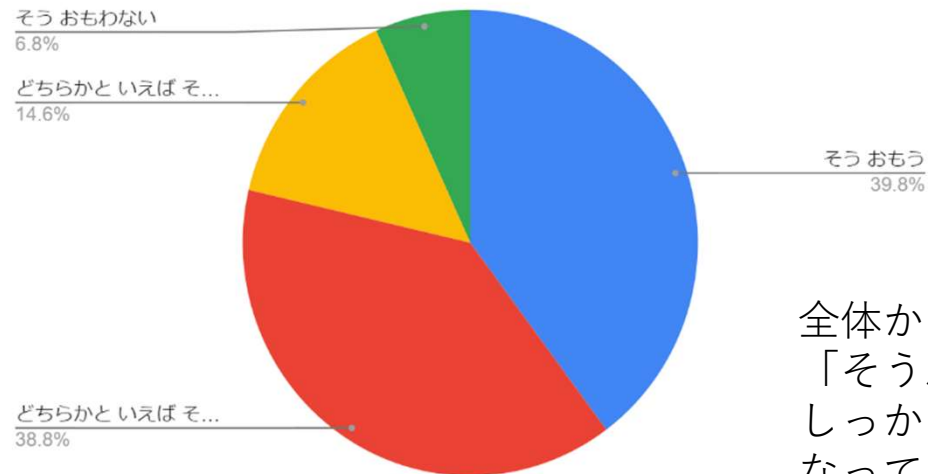


児童は前期と同程度だが、保護者は肯定的回答が-5%に対し、「そう思わない」が5.5%アップしている。ゲーム、テレビ、スマホ等の決まりについては、継続した啓発が必要。また、そもそも「家できまりがない」という家庭もある。来年度はきまりの有無から聞いていきたい。学校の中でも、校内でのタブレット使用のきまりをしっかりと確認していく。

生活目標、きまりの遵守（児童のみ）

児童

「⑦ せいかつもくひょうや きまりを まもって せいかつ
して いる。」のカウント数

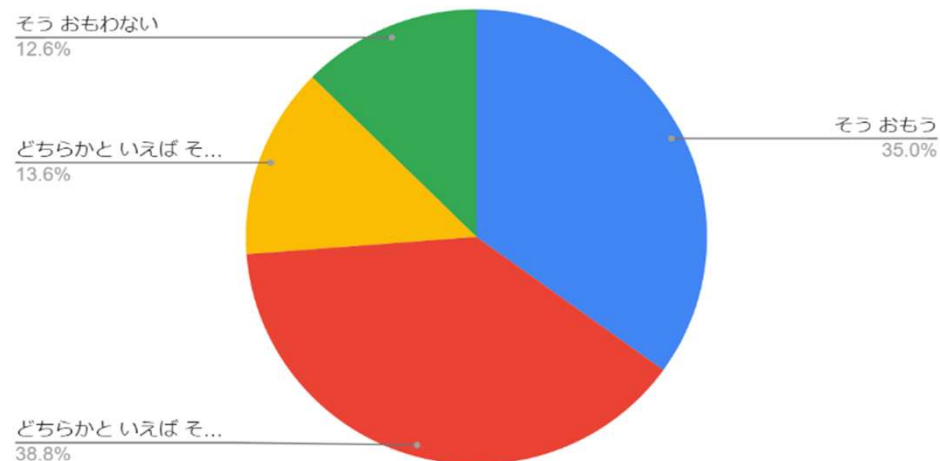


全体から見れば、肯定的回答が78.6%ではあるが、「そう思う」と答えた児童が10.7%ダウン。ふり返りをしっかりする、生活目標が児童の意識に合ったものになっているか等、来年度への課題にする。

元気に楽しく学校に通っている

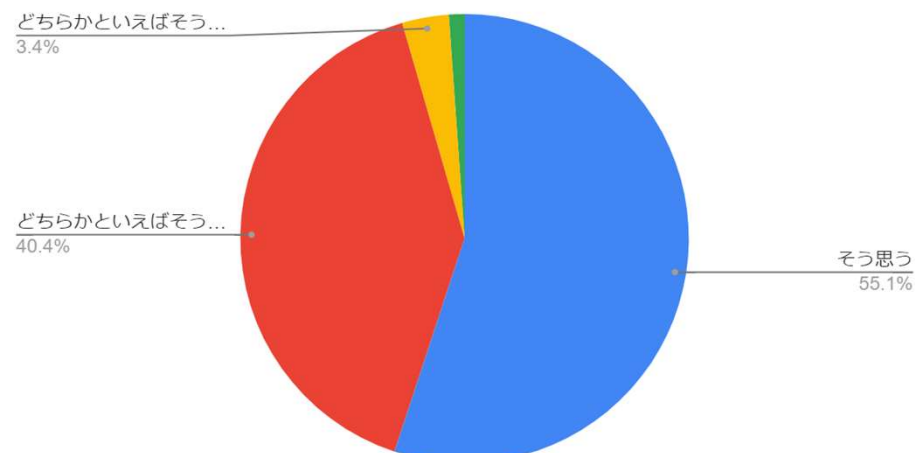
児童

「⑧ がっこうに いくのは たのしいとおもう。」のカウント数



保護者

「⑦お子さんは、元気に楽しく学校に通っている。」のカウント数

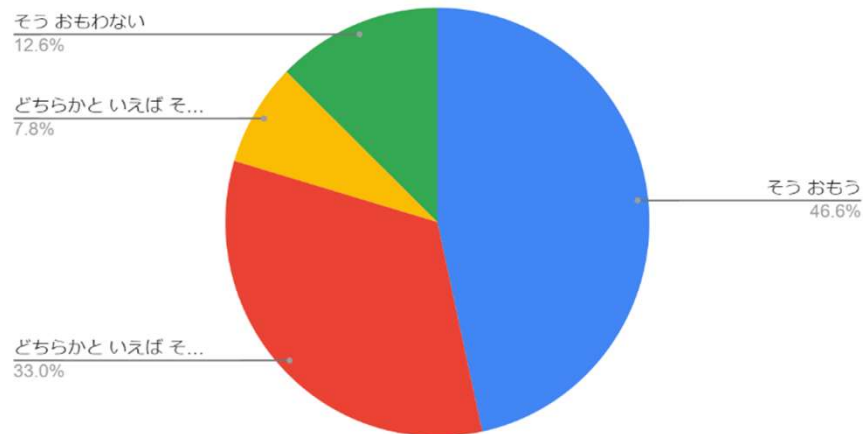


保護者は肯定的回答が2.6%アップで、95.5%が肯定的回答だが、児童は「そう思う」が12.5%ダウン（「どちらかといえばそう思う」は6.1%アップ）。否定的回答の26.2%を気にかけていく。

地域学習（教材、人材）

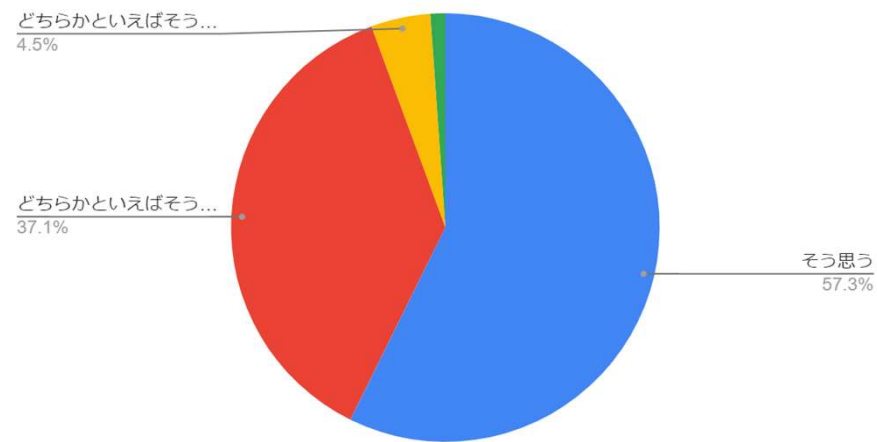
児童

「⑨ ちいきの ことを まなぶのは
たのしい。」のカウント数



保護者

「⑧学校は、地域の教材や人材を生かした学習を進めている。」のカウント数

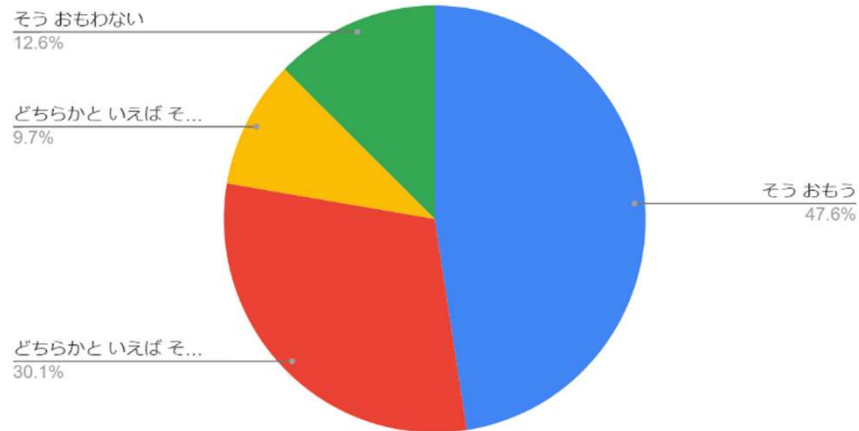


児童は79.6%が肯定的回答、保護者は94.4%が肯定的回答でどちらも前期と同程度。今後も地域とのつながりを大切にしていきたい。

夢や目標を持って、学習、生活

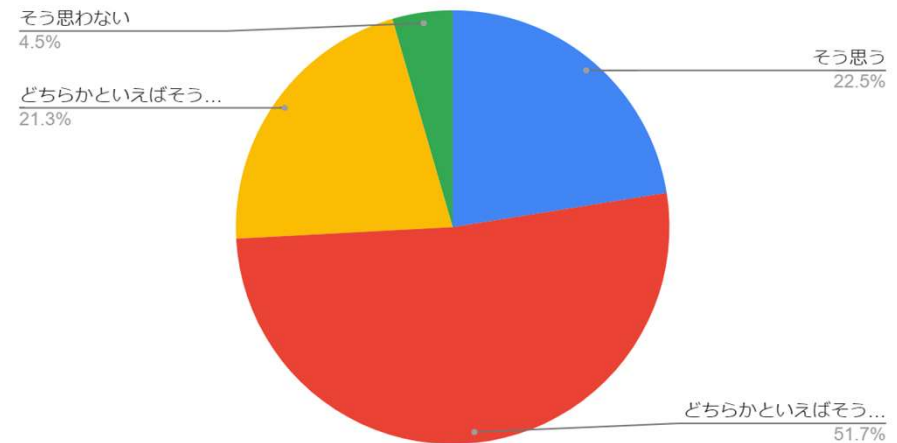
児童

「⑩ ゆめや もくひょうを もって、 がくしゅう したり せいかつを おくったり して いる。」のカウント数



保護者

「⑨お子さんは、夢や目標をもって、学習や生活をしている。」のカウント数

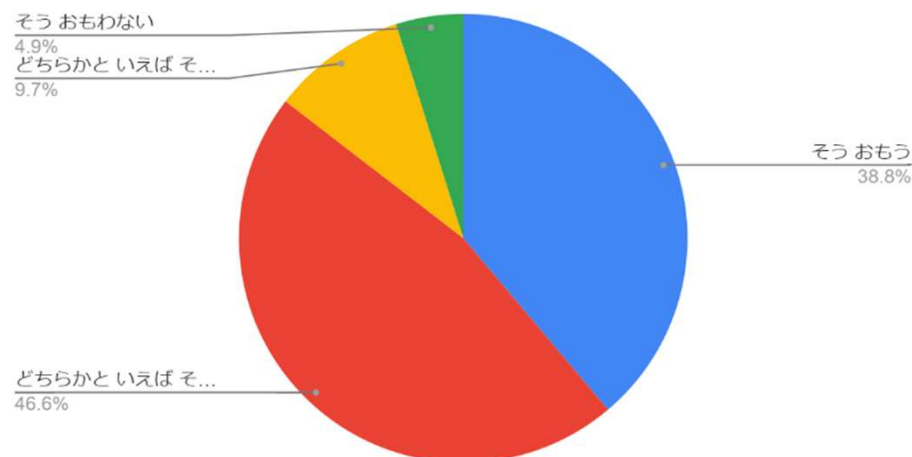


児童、保護者共に前期と同程度の回答だが、否定的回答の児童22.3%、保護者25.8%を気にかけていく必要がある。

国語、算数などの授業の理解

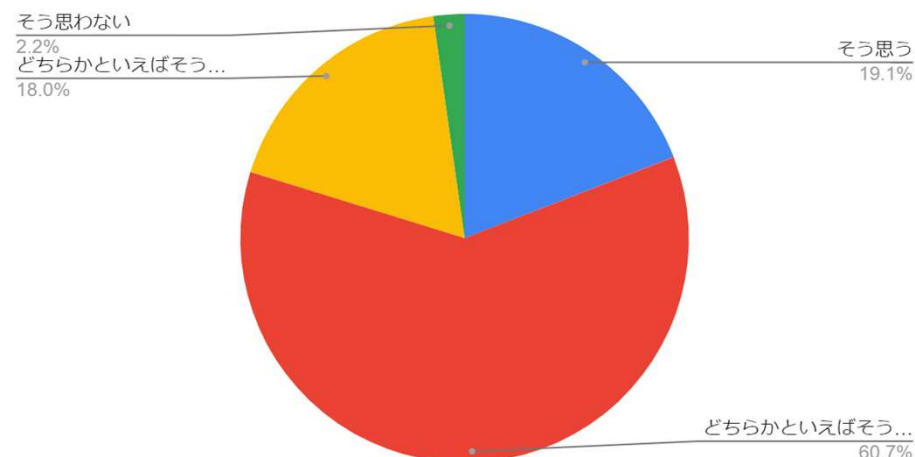
児童

「⑪ こくごや さんすう などの じゅぎょうは よくわかる。」のカウント数



保護者

「⑩国語や算数などの授業内容をよく理解していると思う。」のカウント数

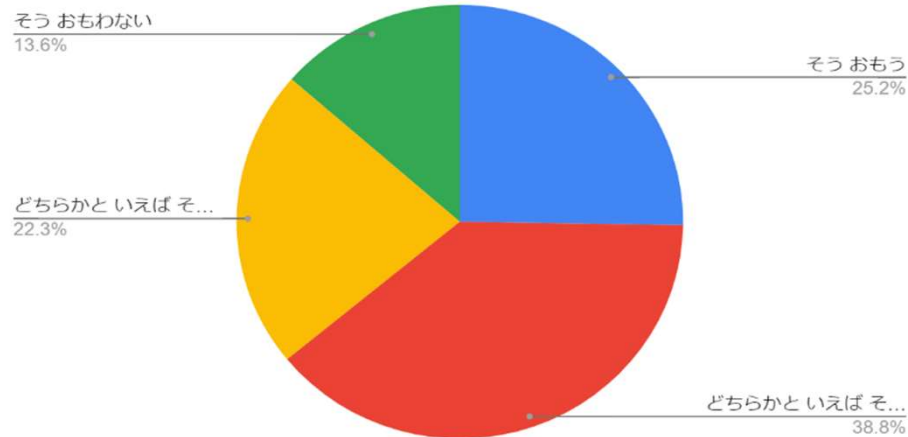


児童の否定的回答は前期と同程度だが、「そう思う」が18.6%ダウン、「どちらかといえばそう思う」が+14.9%、保護者は、肯定的回答が6%ダウン、その分「どちらかといえばそう思う」が+7.8%なので、学年末のまとめや補充を大切にしていける必要がある。教師側もわかりやすい授業を目指して、授業改善、研修等を行っていく。

多くの先生に教わることでの授業内容の理解

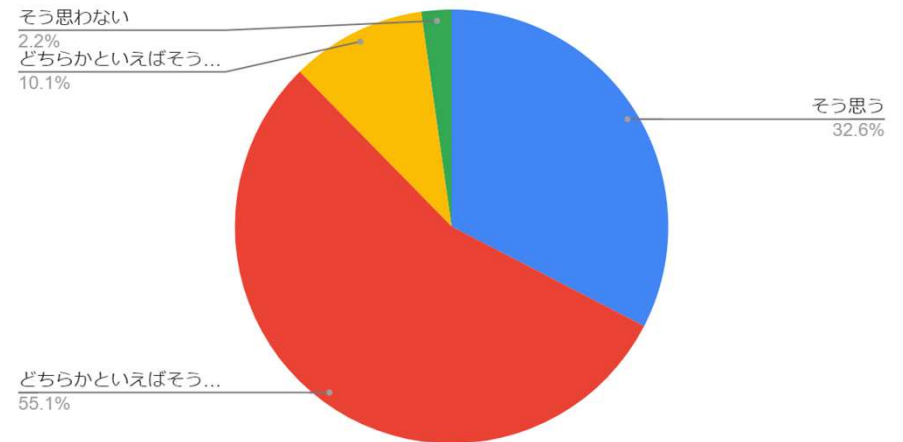
児童

「⑫ たんにん いがいの せんせいに おしえて
もらうと、 やるきが でて、 がくしゅうの ないようが...



保護者

「⑪多くの専科の先生方に教えてもらうことによって、意欲的
に取り組んだり、授業内容をよく理解したりしていると思う...

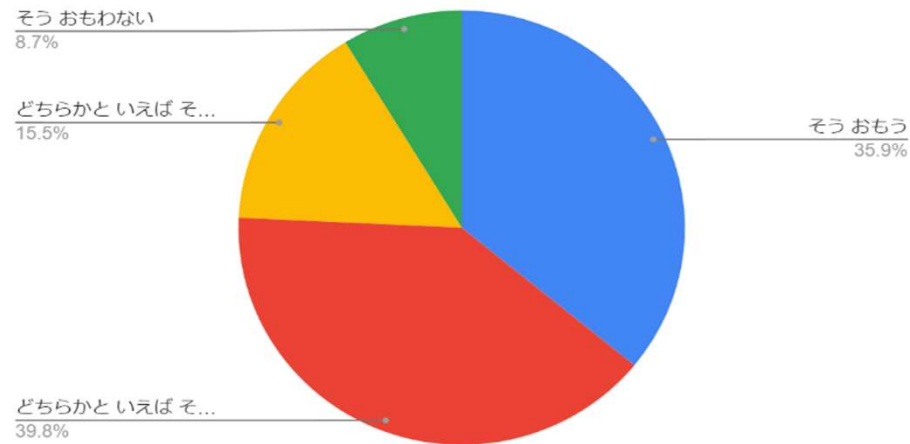


児童の肯定的回答が13.2%ダウン。保護者は前期と同程度で87.7%が肯定的回答。職員間の連携（打ち合わせ、児童理解を含め）の重要性。

タブレット活用による学習意欲、理解の深まり

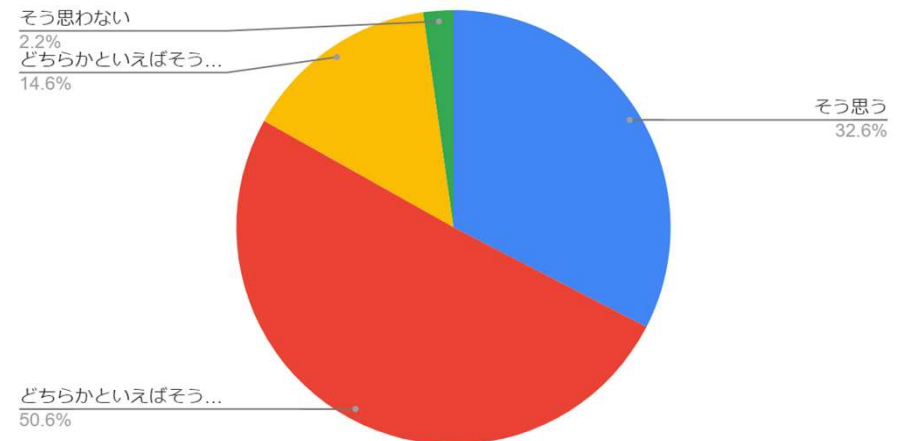
児童

「⑬ タブレットをつかうと、やるきがでて、
がくしゅうの ないようが よく わかる。」のカウント数



保護者

「⑭ お子さんは、タブレットを活用することによって、学習への意欲や理解が深まっていると思う。」のカウント数

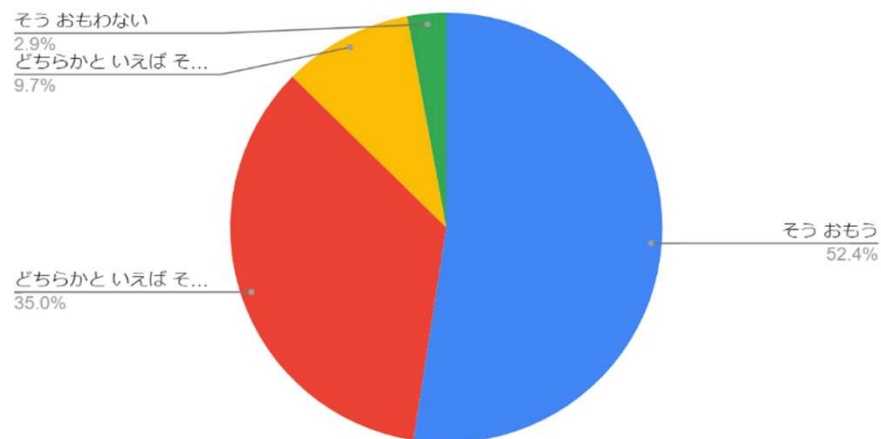


児童は肯定的回答が75.4%（前期よりも6.7%ダウン）、保護者は前期と同程度の83.2%が肯定的回答。今後も学習理解に効果的な場面でタブレットを使っていく。

主体的な取り組み

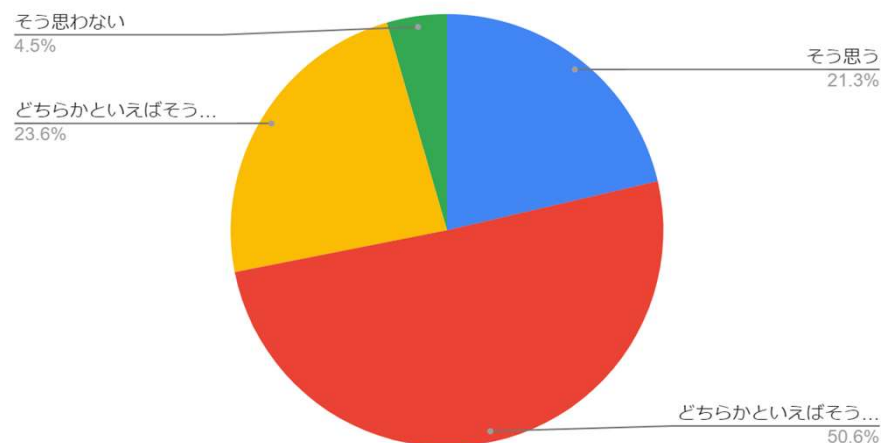
児童

「⑭ じゅぎょうちゅう、 もんだいを
いつしょうけんめいに かんがえて いる。」のカウント数



保護者

「⑬お子さんは、学習に主体的に取り組んでいる。」のカウント数

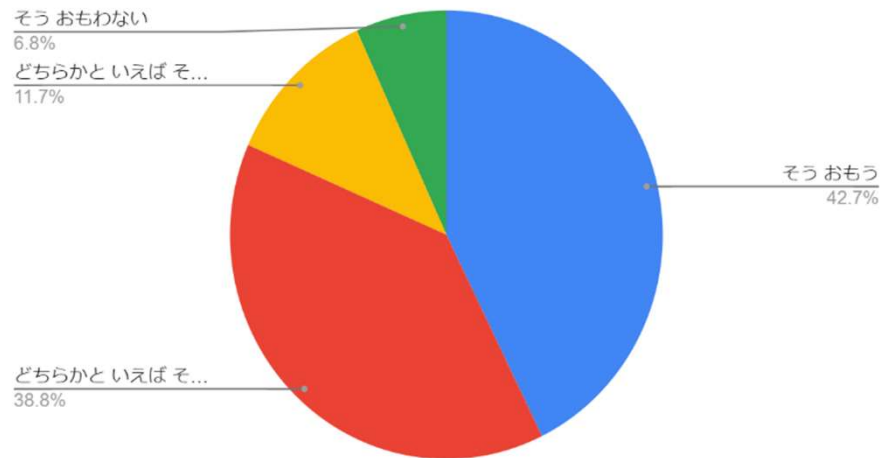


児童は87.4%が肯定的回答だが、否定的回答が7.6%増。保護者は前期と同程度だが28.1%が否定的回答であるので、その思いや心配を懇談等で聞き取っていければ…

話し合い、本で調べることで学習への理解の深まり

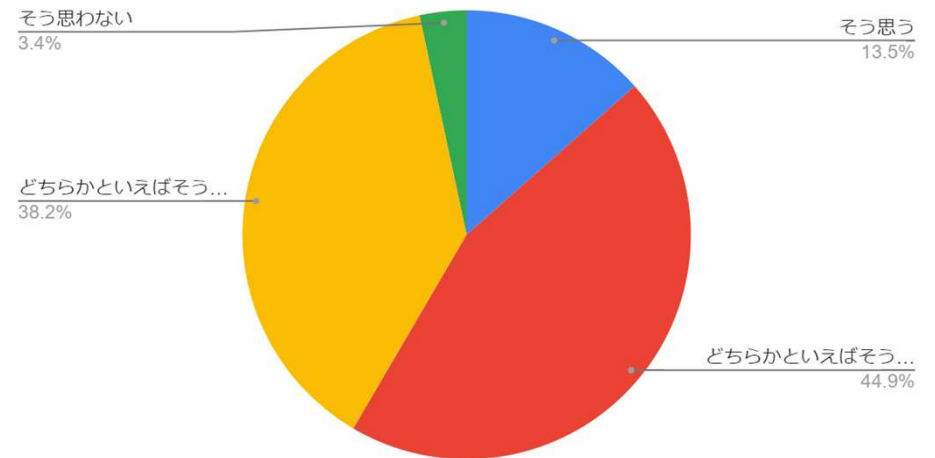
児童

「⑮ ひととはなしあうことでがくしゅうがよくわかる。」のカウント数



保護者

「⑭お子さんは話し合ったり、本で調べたりする学習で力をつけている。」のカウント数

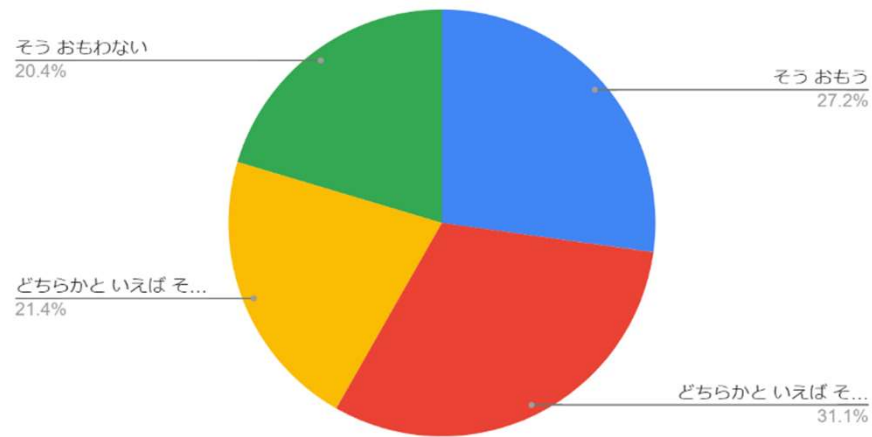


児童は前期と同程度。保護者も前期と同程度で肯定的回答は58.4%。児童にはない「本で調べたり」という部分で肯定的回答が他項目よりも低いのでは？

学習したことをさらに深める

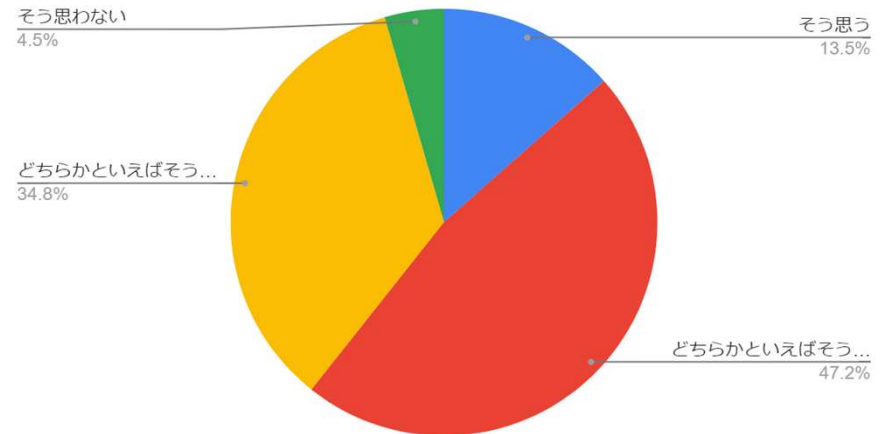
児童

「⑩ がくしゅう した ことを さらに ふかく がくしゅう している。」のカウント数



保護者

「⑮ お子さんは学習したことに興味を持ったり、さらに調べたりして学習を深めている。」のカウント数

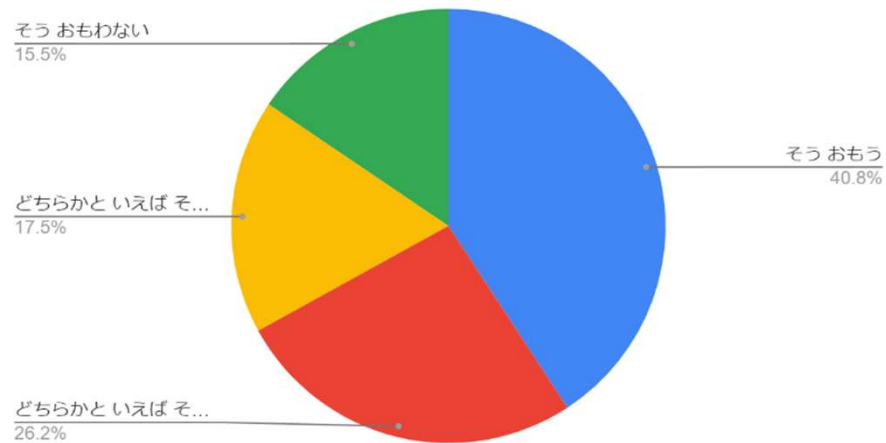


児童は肯定的回答が9.1%ダウンで、「そう思わない」が10.5%アップ。学習したことを生活につなげる橋渡しや自主学習の充実など、てこ入れが必要か。保護者は前期と同程度ではあるが、39.3%が否定的回答。

家庭学習の時間（10分×学年＋10分）

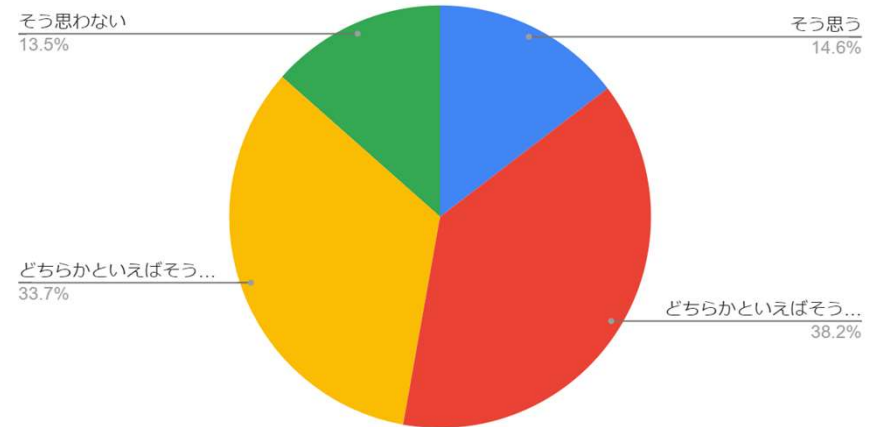
児童

「⑰ いえでも がくしゅうに とりくんで いる。
（10ぶん × がくねん + 10ぶん）」のカウント数



保護者

「⑱ お子さんは、宿題と自主的な家庭学習をしている。（家庭
学習時間のめやすは、10分×学年＋10分）」のカウント数

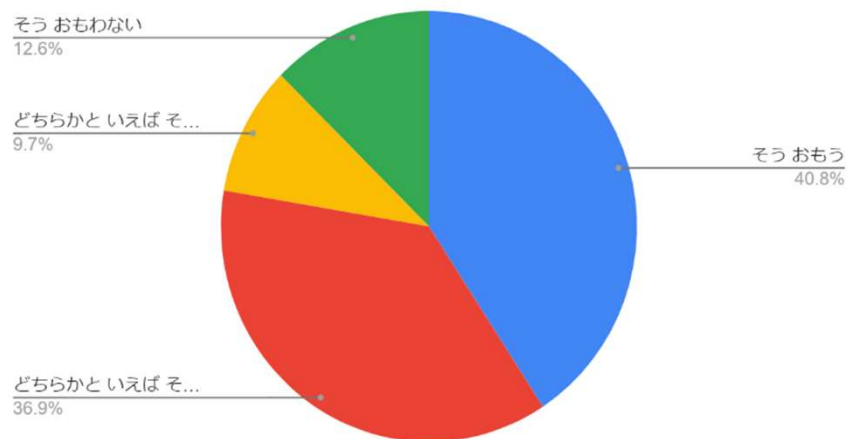


児童は肯定的な回答が9.3%ダウン。保護者は前期と同程度ではあるが、半数近い方（47.2%）が否定的回答。家庭学習の内容、方法の見直しも必要。家庭と学校とで共通理解を図る。

自分が好き、自分大切

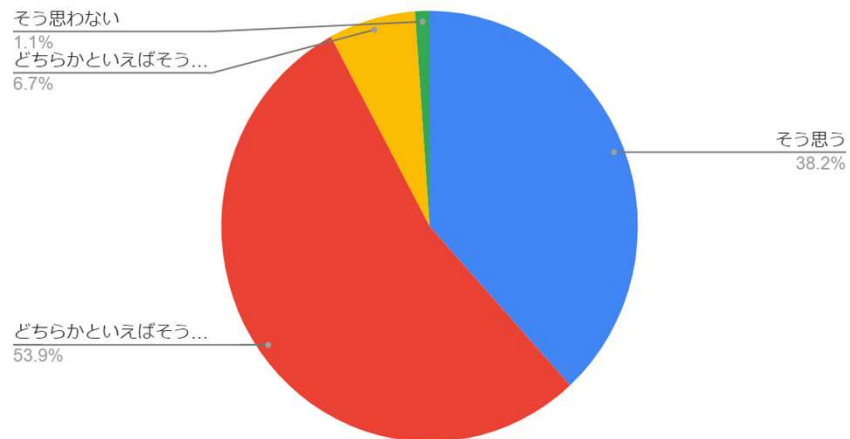
児童

「⑱ じぶんのことがすきで、じぶんのことをたいせつにしている。」のカウント数



保護者

「⑰お子さんは、自分のことが好きで、自分を大切にしている。」のカウント数

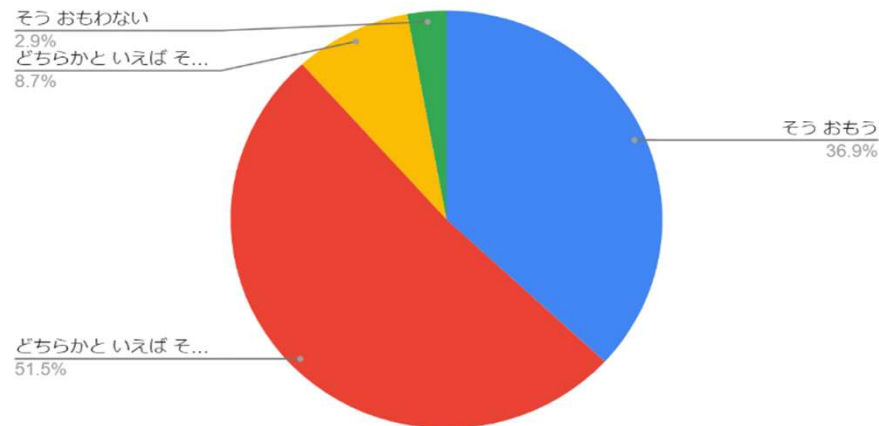


児童は前期と同程度ではあるが、「そう思わない」が6.7%増で否定的回答は2割以上（22.3%）いる。保護者は前期と同程度で9割以上が肯定的回答。自尊感情を育んできたい。また、「自分のことを好きですか。」「自分のことを大切にしていますか。」というように質問項目を分けたり、「どんなときに自分を大切にしていますか。」という任意回答を設け、児童の認識を知り、それを子どもに返すことで、自分を大切にすることはどういうことなのか、具体的に児童がわかるようにしていくことも必要か。

人を大切にする気持ち

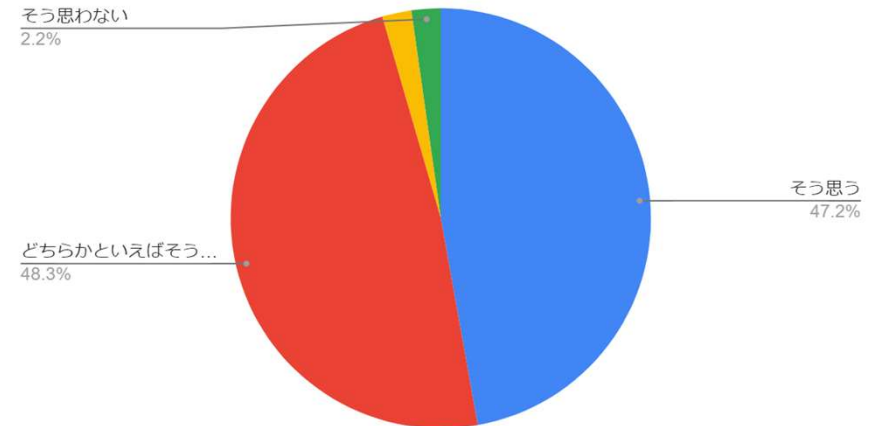
児童

「⑩ひとに いやがる ことを せず、だれに たいしても やさしい ことばがけが できている。」のカウント数



保護者

「⑩お子さんは、人を大切にする気持ちが育ってきている。」のカウント数

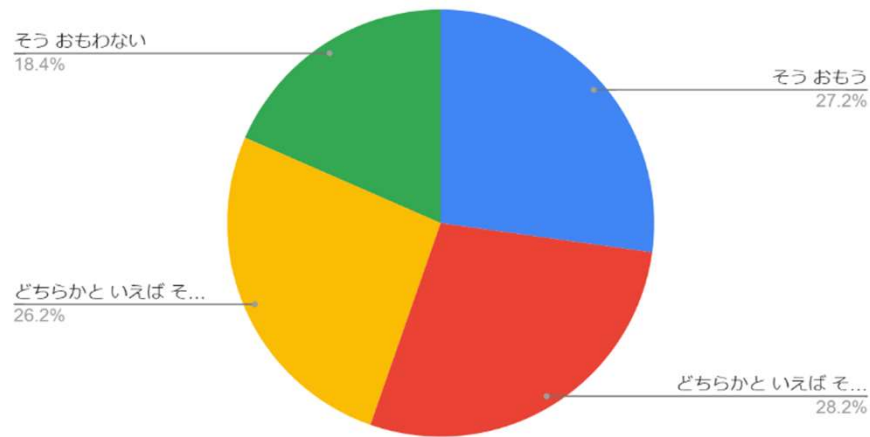


児童、保護者ともに前期と同程度で、それぞれ88.4%、95.5%が肯定的回答。

家庭で人権を育む（思いやり、協力等）話をしているか

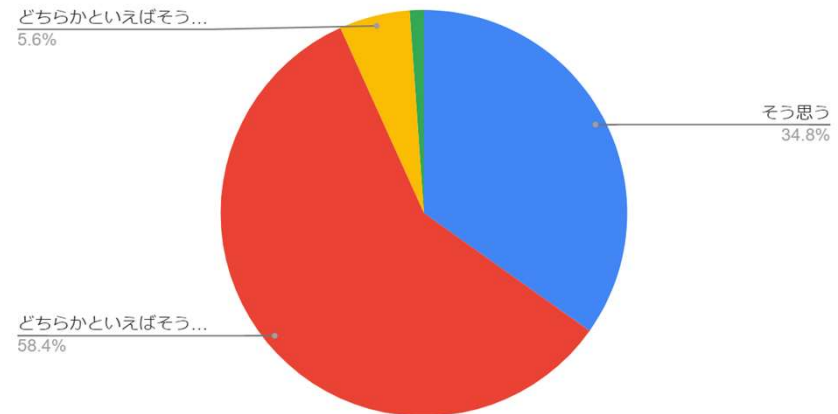
児童

「⑳ いえのひととおもいやり・きょうりよく・やさしさなどについての話をしている。」のカウント数



保護者

「⑲お子さんと人権（思いやりや協力、優しさなど）の大切さについての話をしている。」のカウント数



保護者は前期と同程度で93.2%が肯定的回答だが、児童は前期より肯定的回答が9%ダウンで、全体を見ても回答が別れている。今年度、冬休みに道德の副読本を使った家庭対話の機会を取り入れたが、家庭からも好意的な意見が多かった。今後も継続させたい。また、授業で扱った人権についての話題をお便りで家庭に知らせる等、学校からもさらに発信していきたい。

縦割り班活動で仲間や下級生にやさしく (児童のみ)

児童

「㊤たてわりはんかつどうを とおして、 なかまや
かきゆうせいに やさしく して いる。」のカウント数

そう おもわない

3.9%

どちらかといえばそ...

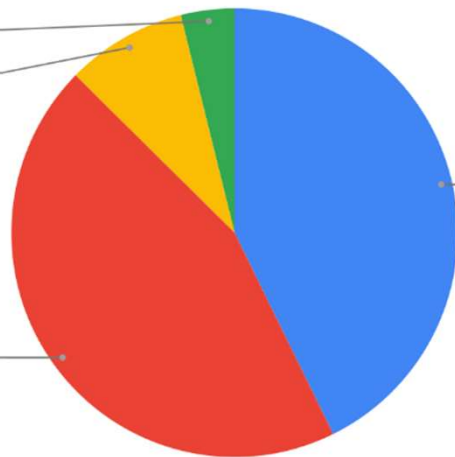
8.7%

どちらかといえばそ...

44.7%

そう おもう

42.7%

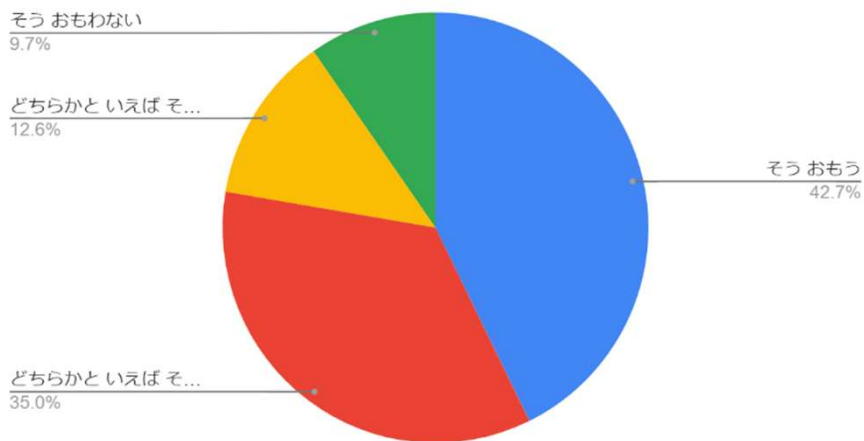


前期と同程度で87.4%が肯定的回答。来年度も、縦割りの活動を継続させていきたい。

自尊感情、自分の長所を伸ばす

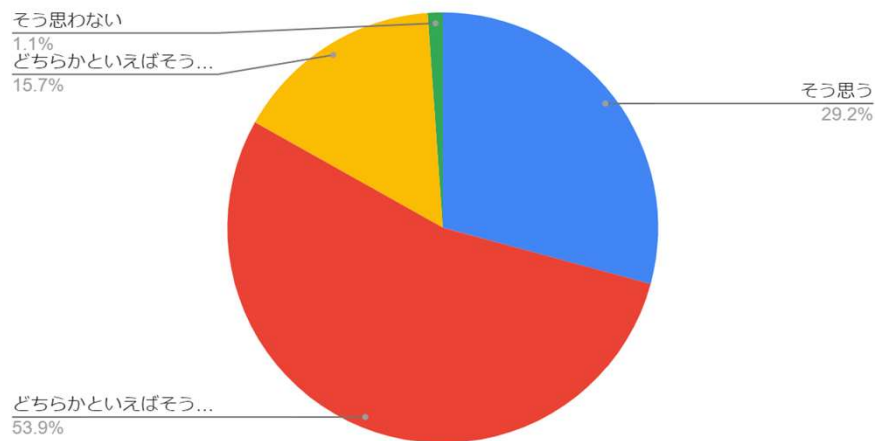
児童

「② じぶんには よい ところがあるとおもう。」のカウント数



保護者

「②お子さんは、自身の長所を伸ばそうとしている。」のカウント数

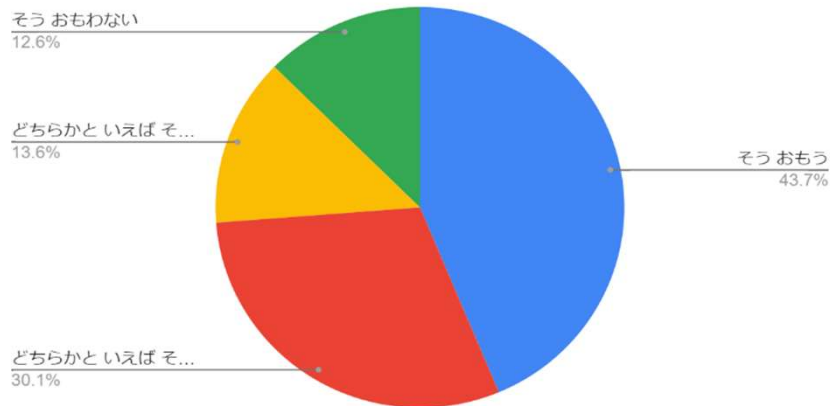


児童は肯定的回答が8.4%ダウン、否定的回答が+8.5%。保護者は肯定的回答7.7%ダウン。児童の否定的回答22.3%は「自分のことが好きで自分を大切にしている」の否定的回答と同程度。自尊感情を高めたい。

苦手なことにもコツコツと取り組む

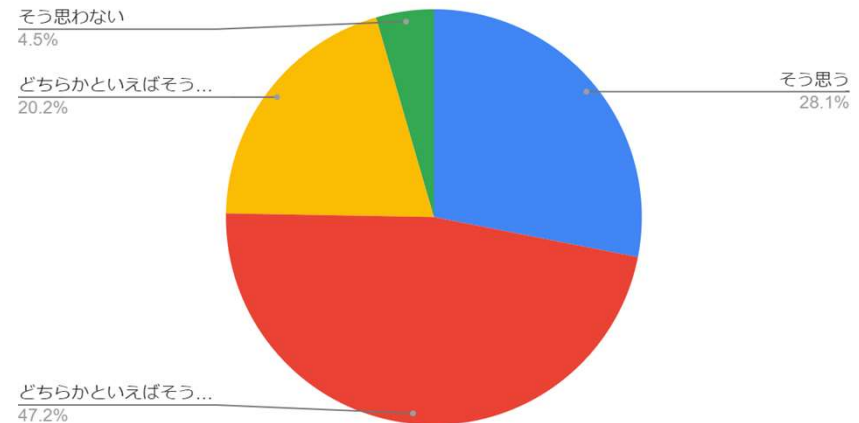
児童

「㉓ じぶんの にがてな ことや できない ことに
コツコツと とりくんで いる。」のカウント数



保護者

「㉔お子さんは、自分の力を伸ばそうとこつこつ努力している。」のカウント数

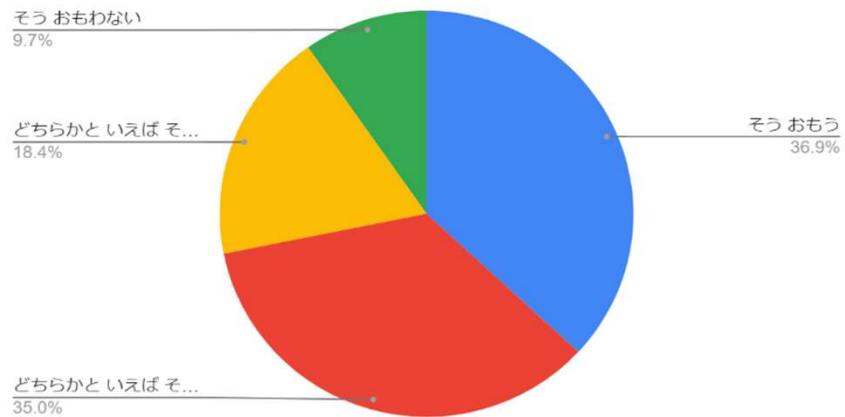


児童は肯定的回答が9.3%ダウン、保護者は前期と同程度。最終的に自尊感情にもつながる部分か。練習過程や努力を認め合える機会を持ちたい。

家族や地域のために動く

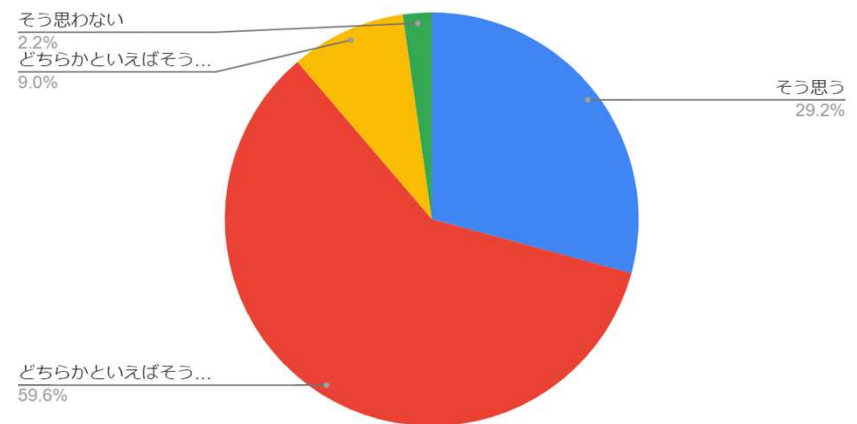
児童

「② かぞくや ちいき、 ともだちの ために なにかを
して いる。」のカウント数



保護者

「②お子さんは、地域や家族、友だちのために声をかけたり手
助けしたりしている。」のカウント数



児童は前期と同程度、保護者は6.1%ダウンではあるが88.8%が肯定的回答。